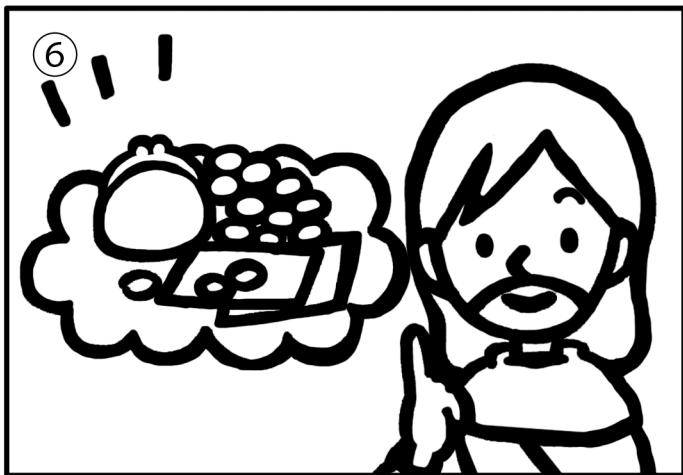
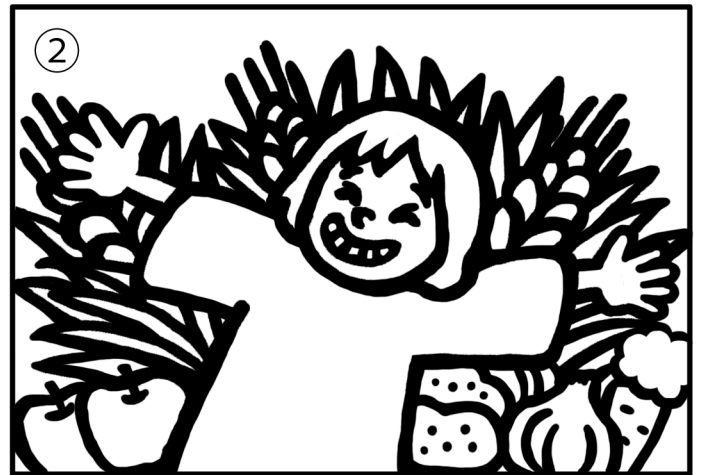
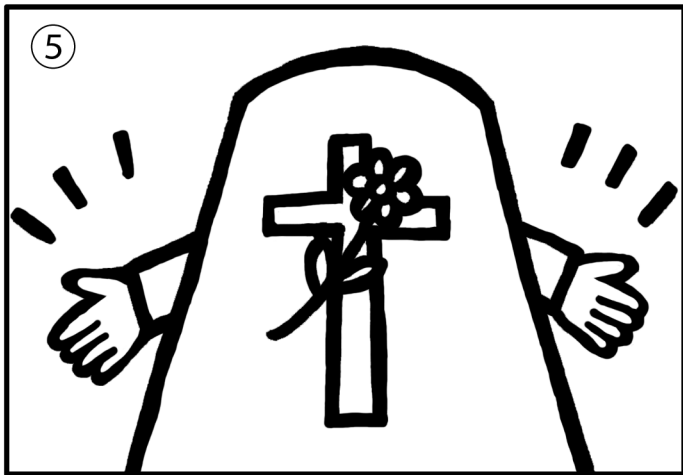
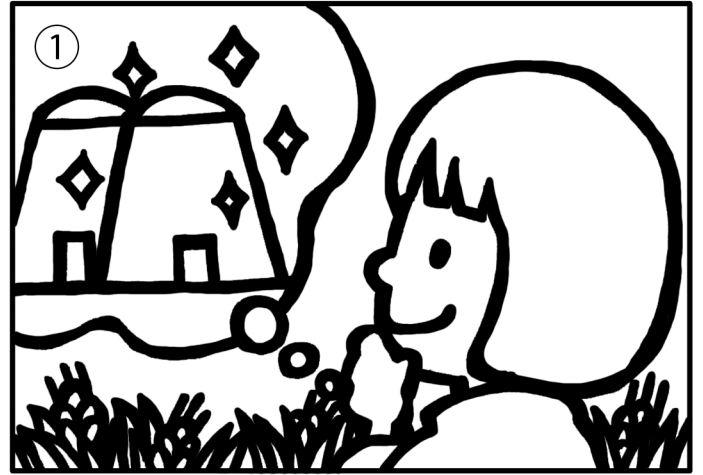


# 10月7日 親切なサマリヤ人 ルカ10・25～37

1. イエス様がお話されるのを、じっと聞いていたある律法学者がイエス様に質問をしました。
2. イエス様は彼の心を見抜き、彼を見つめながらたとえ話をされました。
3. 祭司が通りかかりましたが、強盗に襲われた旅人を見ないふりをして駆けて行ってしまいました。
4. 次にやってきたレビ人も走って行ってしまいました。次にやってきたサマリヤ人は倒れている旅人に急いで駆け寄りました。
5. サマリヤ人は旅人の傷を消毒し、オリーブ油を塗って包帯し、自分のロバに乗せて宿屋まで運びました。
6. あなたの隣り人とは、あなたの助けを必要としている人のことです。

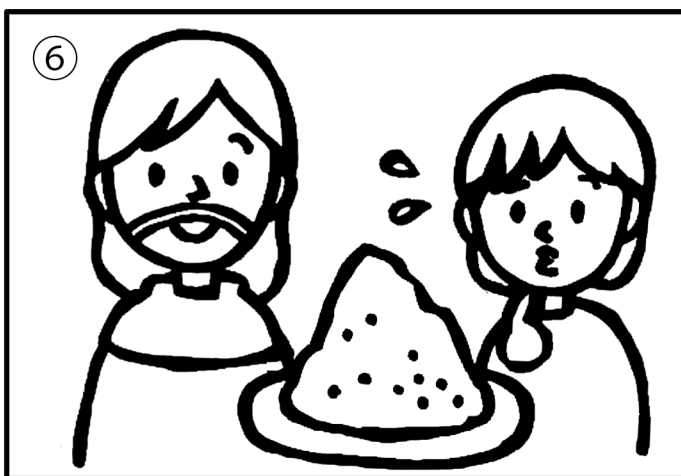
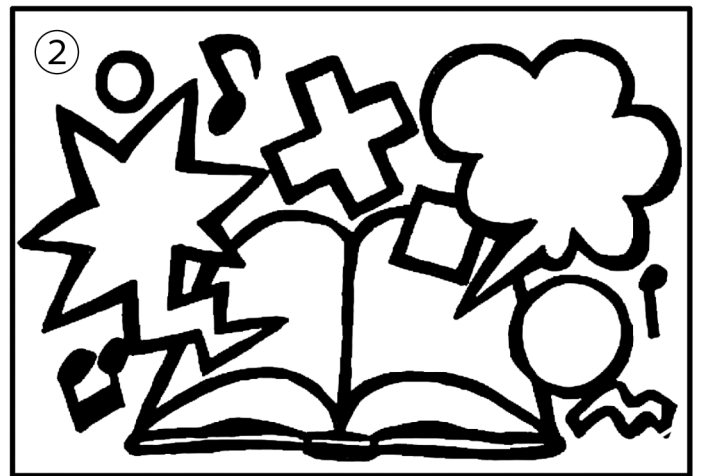
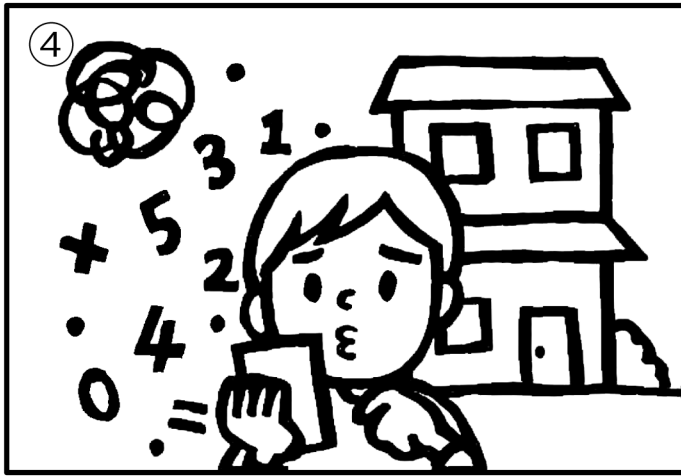
※各絵をA4サイズに拡大するには、まず原画を200%拡大し、更に141%拡大する。A3サイズは200%拡大し、更に200%拡大



10月14日 金持ちおじさんの行く末は？ ルカ12・13～21

1. その年は、まれに見る大豊作で、たくさんの作物をしまっておく所がないほどでした。
2. 「たましいよ。おまえには長年分の食料が蓄えてある。な一んも心配することはないぞ。さあ、安心せよ。思うぞんぶん食べよ、飲めよ、楽しめよ」と、お金持ちのおじさんはふんぞり返りました。
3. 「おまえさんはなんという愚か者だ。おまえの魂は、今夜のうちに取り去られ、死ぬであろう。そうしたら、おまえが用意し、蓄えた物は、だれのものになるのか。」と神様が語りかけました。
4. 神様に対する感謝のない心は、わたしたちを自己中心にさせてしまいます。
5. 死んだら何も持って行くことはできないことを戒めようと、棺桶に二つの穴をあけさせておきました。
6. イエス様は「自分のために古びることのない財布をつくり、盗人も近寄らず、虫も食い破らない天に、尽きることのない宝をたくわえなさい。あなたがたの宝のある所には、心もあるからである。」と教えてくださいました。

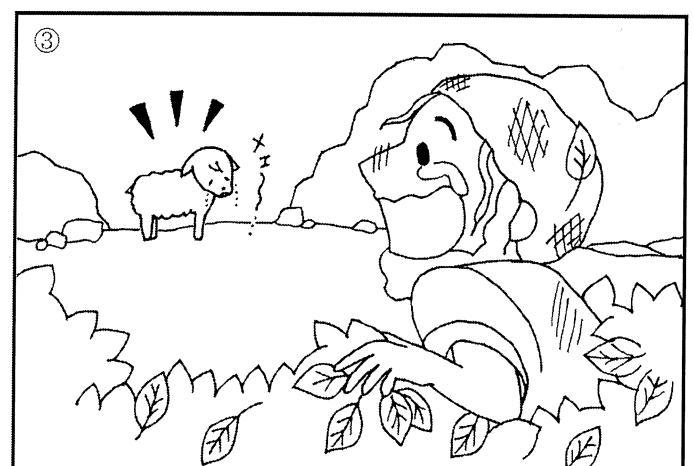
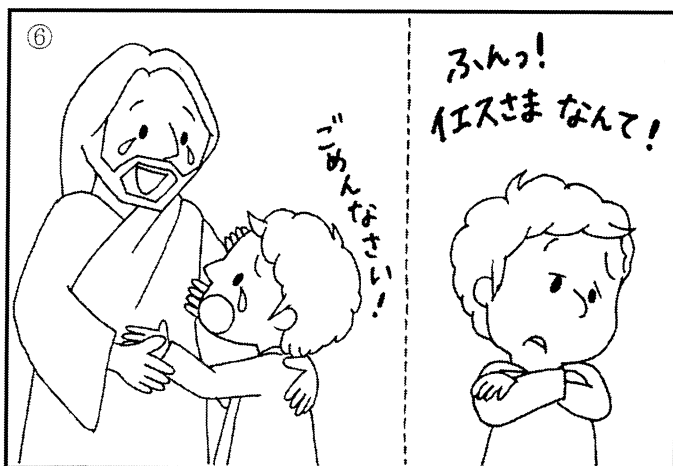
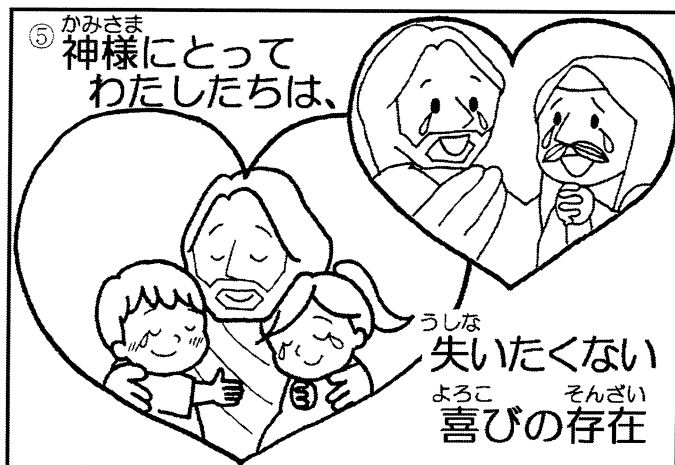
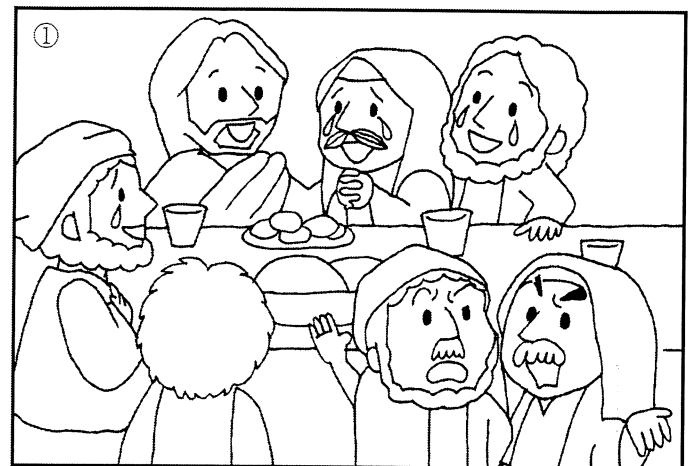
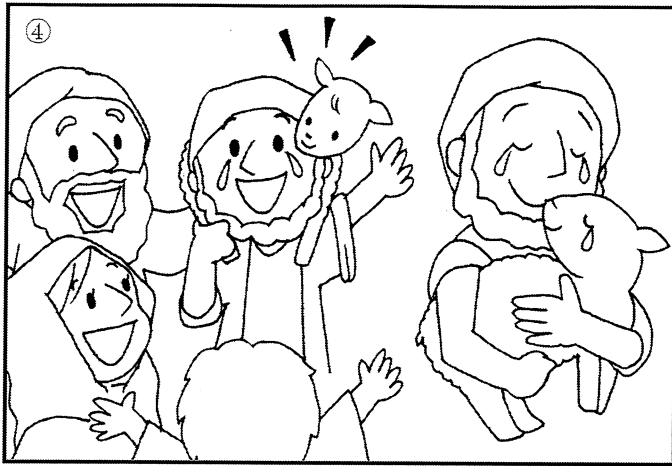
※各絵をA4サイズに拡大するには、まず原画を200%拡大し、更に141%拡大する。A3サイズは200%拡大し、更に200%拡大



10月21日 キリストの弟子の心得 ルカ14・25～35

1. 皆さんは、美術館に絵の鑑賞に行ったことがありますか？
2. 聖書は字ばかりの書物ですが、よく読んでみるとその中から音が聞こえてくるのです。
3. イエス様はご自分と運命をともにする者、自分の家族や財産、自分の命などを捨ててまでついて来る者を求められました。
4. 家を建てようとするときは、仕上げるだけのお金が足りるのかよく考え、計算するでしょう。
5. 王さまは戦う時まず作戦を練ります。よく熟慮し戦うか降参するか、どちらかを選ばなければなりません。
6. キリストの弟子は「地の塩」となってこの世であかしするものでなければいけません。

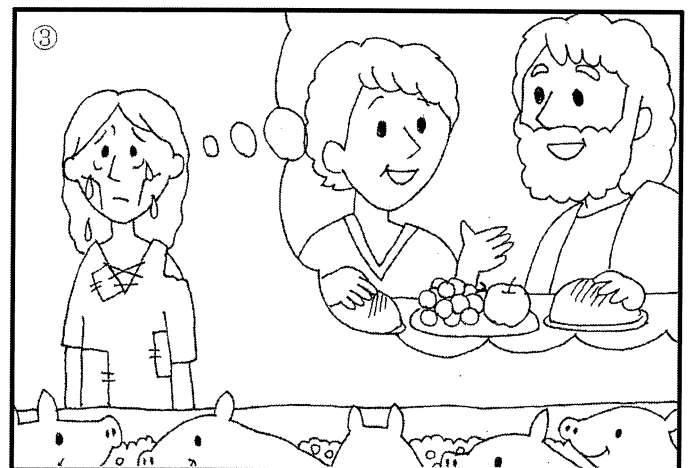
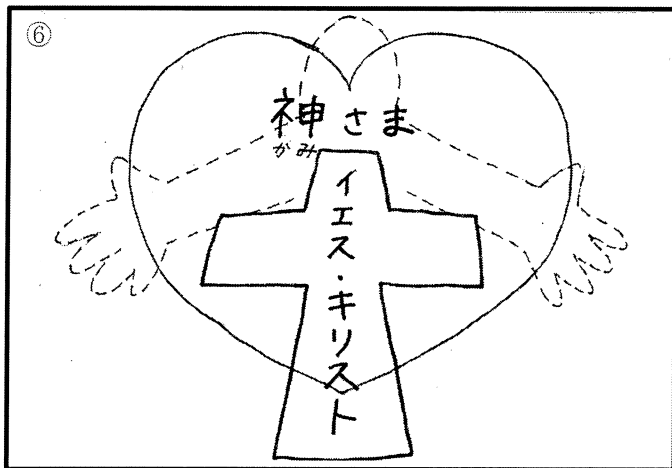
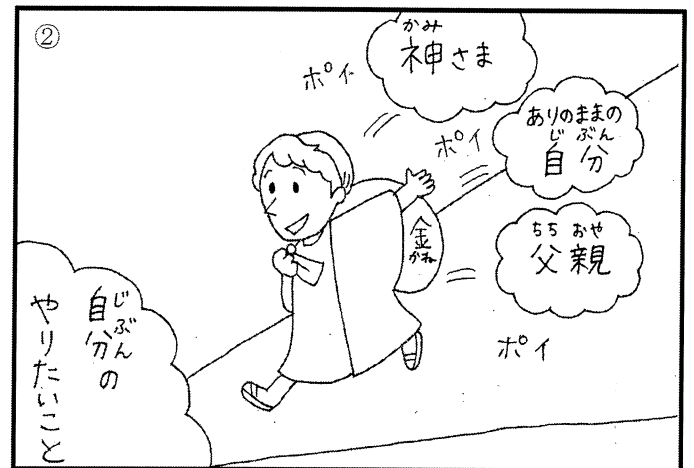
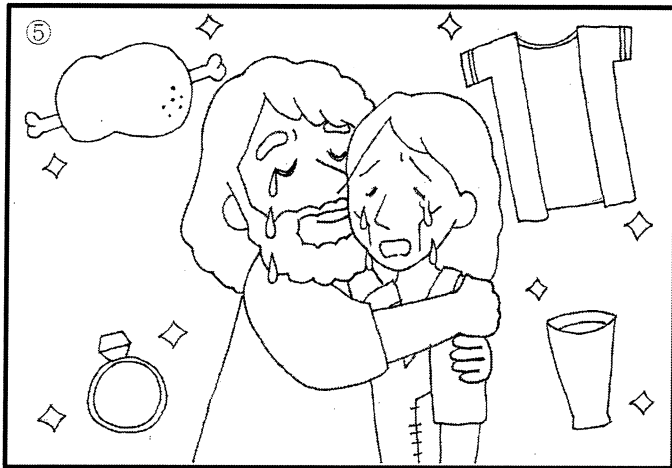
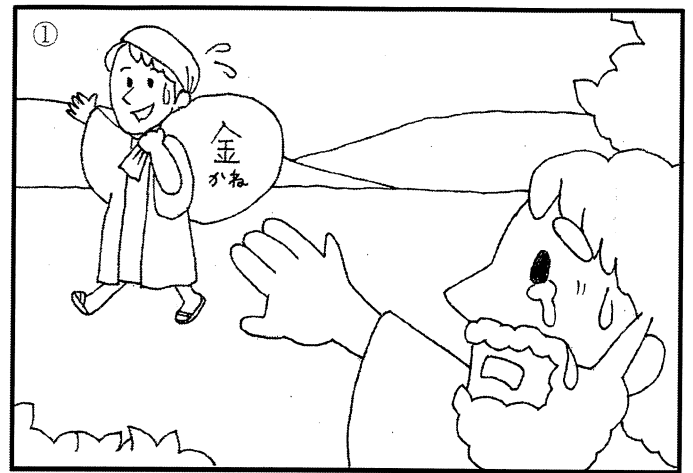
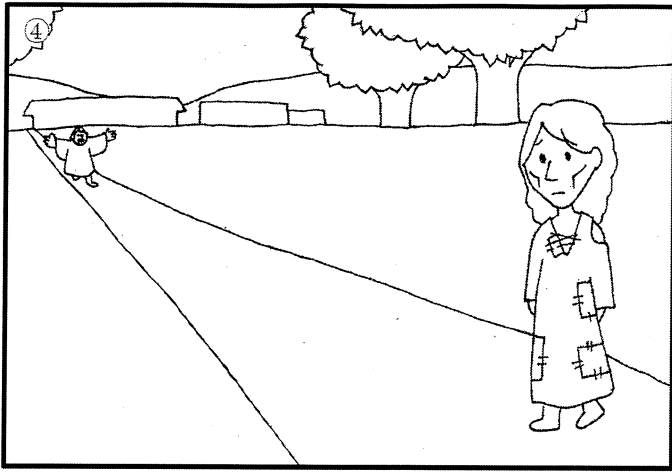
※各絵をA4サイズに拡大するには、まず原画を200%拡大し、更に141%拡大する。A3サイズは200%拡大し、更に200%拡大



# 10月28日 「迷子になっていませんか？」 ルカ 15・1～7

1. 取税人たちは、イエス様の話を聞いて悔い改めている。律法学者たちは不平を言っている。
2. 羊飼いが、迷子になった1匹の羊を、捜している。
3. 羊飼いは、必死に迷子の羊を捜し、見つけ出した。
4. 羊飼いは、見つけた羊をがっしり抱いて、肩に乗せ、羊が見つかった喜びを、近所の人たちと共に分かち合った。
5. 神様にとって私たちは、失いたくない喜びの存在。
6. 「イエス様なんて…」と言って、迷子になっている男の子。→悔い改めて、イエス様のもとに帰った男の子と、帰ってきたことを喜んでいるイエス様。

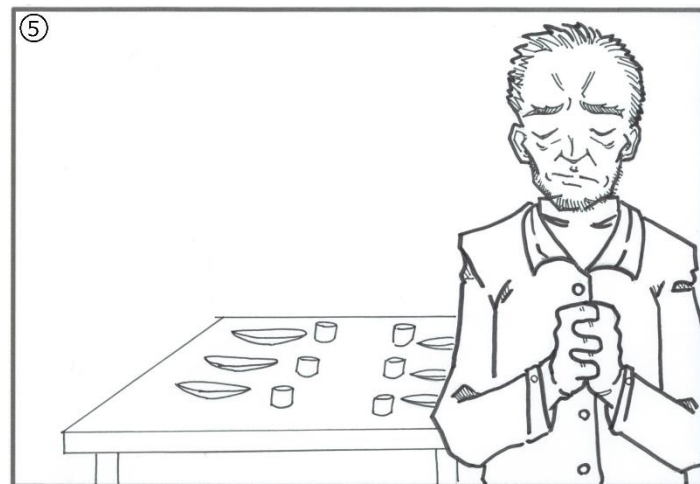
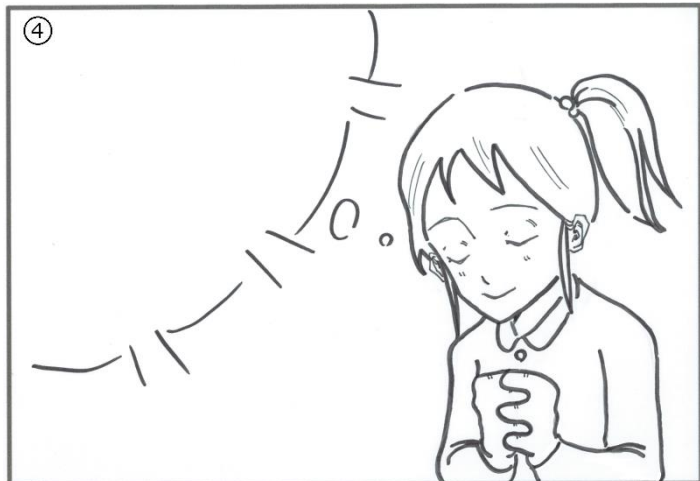
※ 各絵をA4サイズに拡大するには、まず原画を200%拡大し、更に141%拡大する。A3サイズは200%拡大し、更に200%拡大。



# 11月4日 「さあ帰ろう、神様のもとに」 ルカ 15・11～24

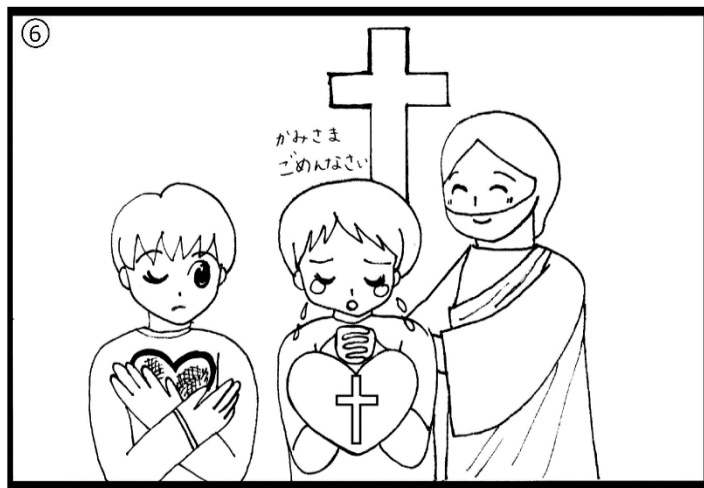
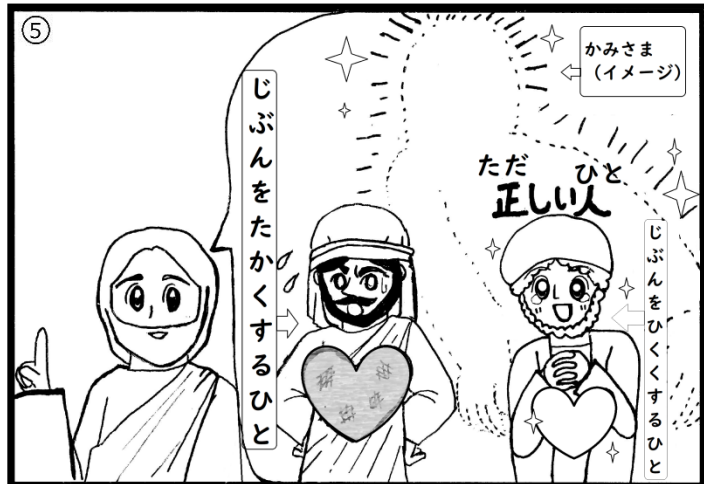
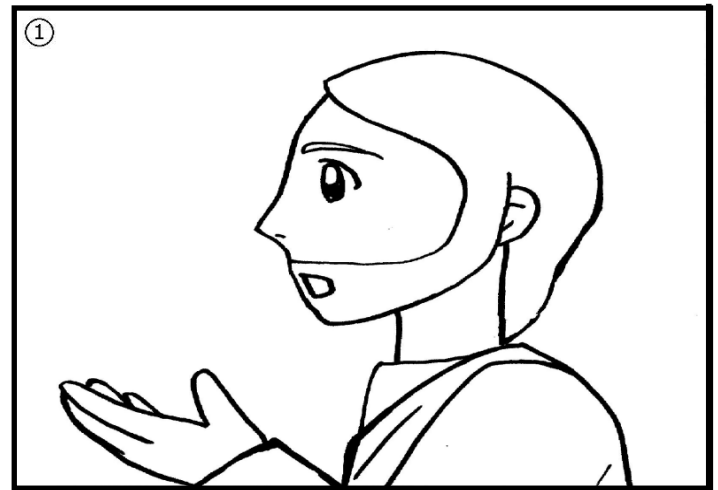
1. 父親から財産をせがんで出て行った息子。悲しむ父親。
  2. 自己中心に歩む息子。
  3. 父親の所にいた時のことを思い出し、本心に立ち帰った息子。
  4. 家に向かう息子。走ってくる父親。
  5. ありのままの息子を赦し、受け入れてくれる父親。
  6. 神様のもとに帰れるように、神様はイエス・キリストの十字架の道を開いてくださっている。
- ※ 各絵をA4サイズに拡大するには、まず原画を200%拡大し、更に141%拡大する。A3サイズは200%拡大し、更に200%拡大。





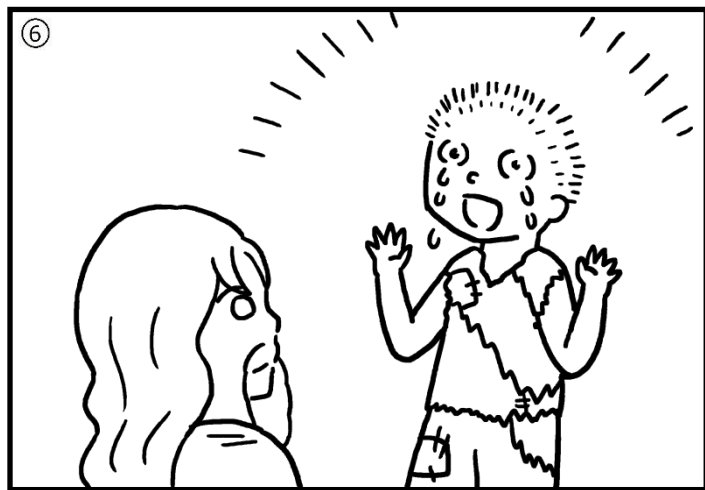
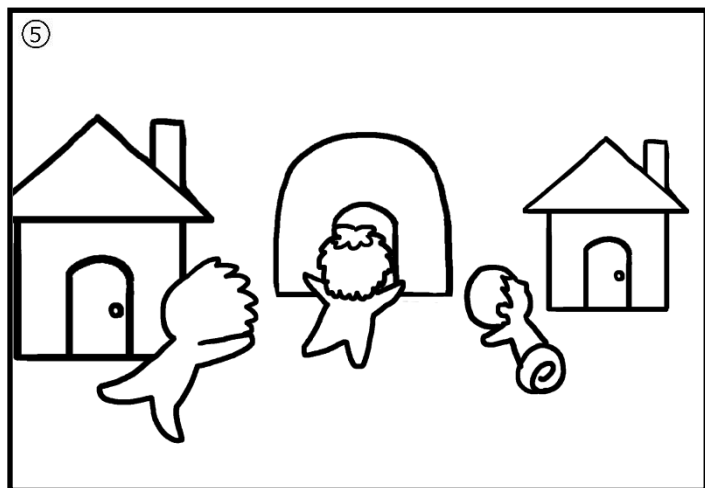
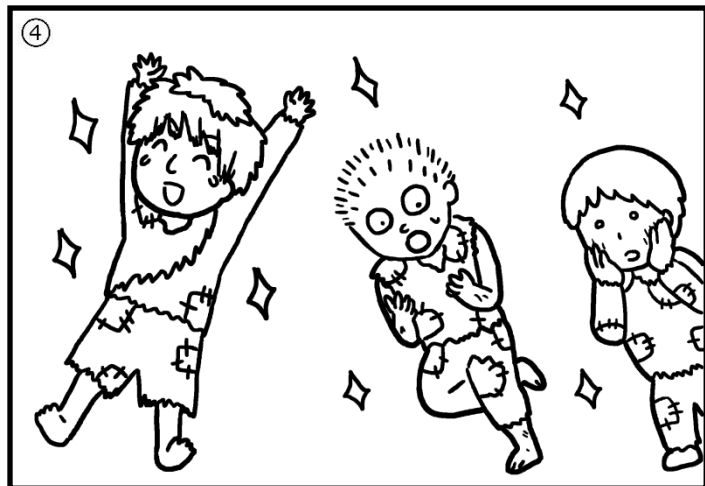
# 11月11日 「不義な裁判官」 ルカ18・1～8

1. こんな話を聞いたことがあります。天国の倉庫に、リボンが付いた沢山のプレゼントが置いてあります。
2. ある町に、神を恐れず、人を人とも思わぬ裁判官がいました。
3. ところが毎日、毎日やってきては裁判をしてほしいと訴えるのです。
4. みなさんは、祈りに答えてくださる神様を知っていますか？
5. イギリスの国に、ジョージ・ミューラーという先生がいました。両親のいない子どもたち三千人を養い育てていました。
6. その時です。馬車の音が聞こえ、たくさんの食料が届けられました。神様が、誰かの心にミューラー先生のとこに食料を届けるように語りかけられたのでしょ。



# 11月18日 「パリサイ人と取税人」 ルカ18・9～14

1. イエス様のまわりには、自分は神様の前に正しい人だと思いこんで、まわりの人を見下している人がいたようです。イエス様はそんな人たちにお話をしました。
2. ふたりの人が神殿にやってきました。お祈りするためです。ひとりはパリサイ人。そしてもうひとりは取税人でした。
3. パリサイ人は立って、自分がどれだけ立派な人なのか自慢するようにお祈りをしました。
4. 取税人は遠く離れて立ち、目を上に向けようともしないで、胸を打ちながらお祈りしました。
5. イエス様は「神様に正しい者としていただいて自分の家に帰ったのは、この取税人でした。パリサイ人ではありません。自分を高くする人は低くされます。自分を低くする人は高くされるのです。」
6. 本当は神様に隠したいことがあるのに「ぼくは正しいんだ」「わたしは間違っていないわ」と、高ぶるのではなく、わたしたちも取税人のように、自分の本当の姿を認めて素直に悔い改める人にしていただきたいですね。

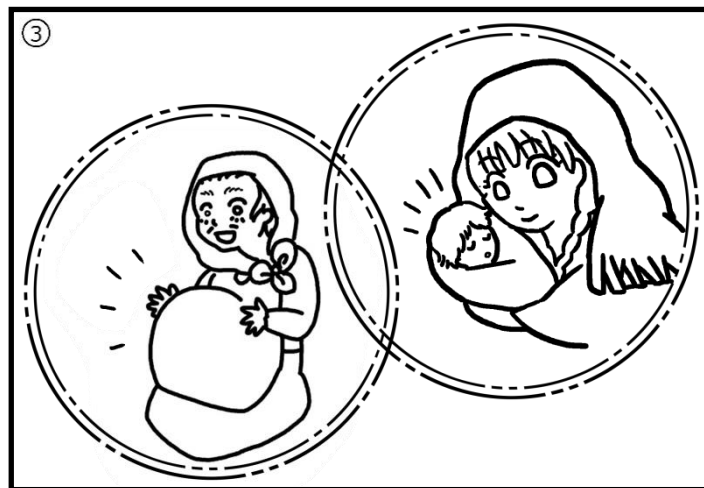
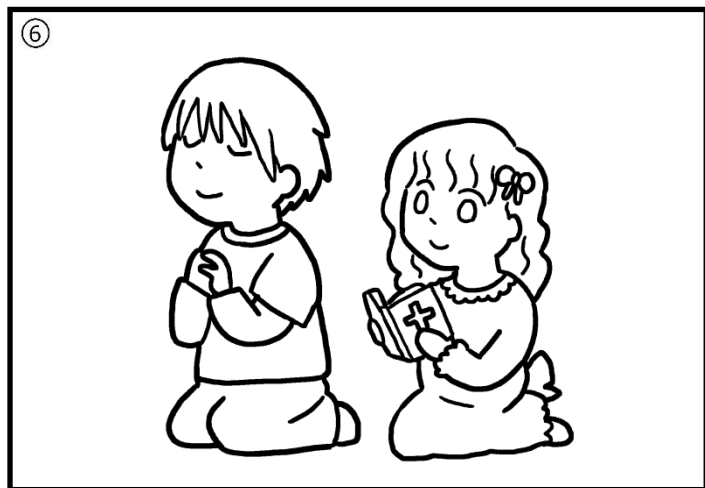
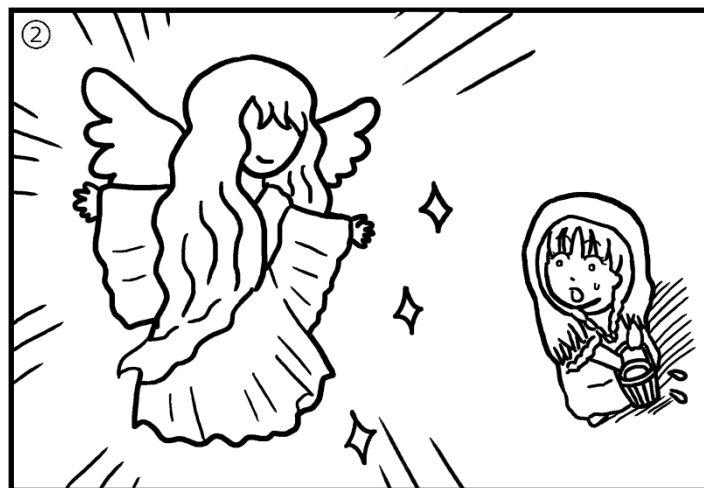
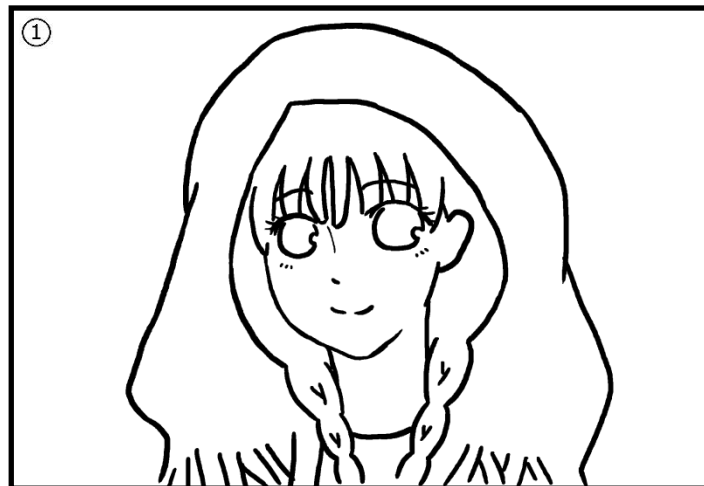


# 11月25日 「いやされた十人の病人」 ルカ 17・11～19

1. イエス様たちは十人の人に出会いました。この人たちは重い皮膚病にかかっていたました。
2. 十人の人たちは、遠くから大きな声でイエス様に叫びました。「イエスさま、わたしたちをあわれんでください!」
3. イエス様は「祭司のところに行ってからだを見せなさい」と言いました。
4. 祭司のところに行く途中で十人全員病気が治って、からだがきれいになりました。神様が病気を治してくださいましたのです。
5. ユダヤの人たちは神様を知っていました。それなのに病気が治ったことを神様に感謝するのを忘れて、家に帰っていったのです。
6. サマリヤの人だけが神様に感謝するために帰ってきたのです。たったひとりイエス様に感謝をしたこの人は、病気が治っただけではなく、神様を礼拝して生きる人生に変えられました。

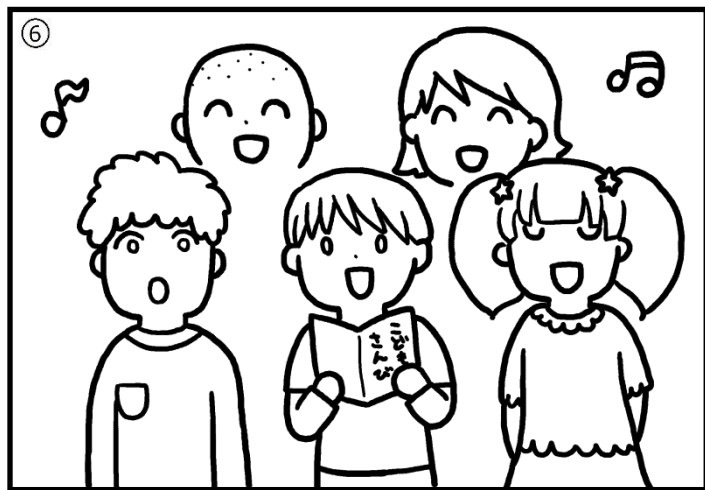
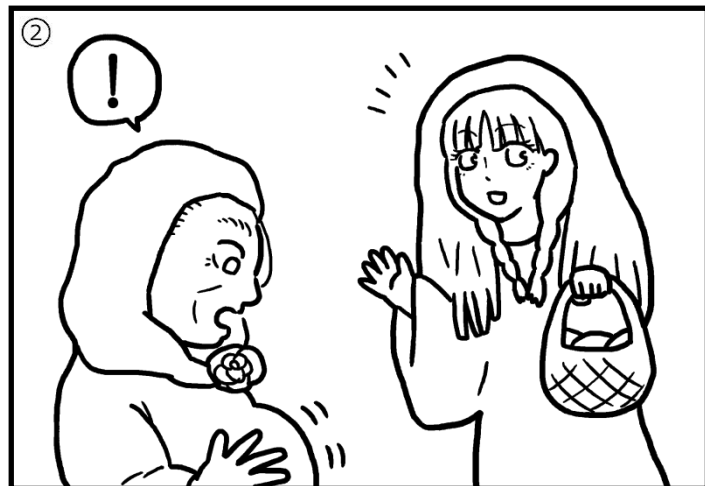
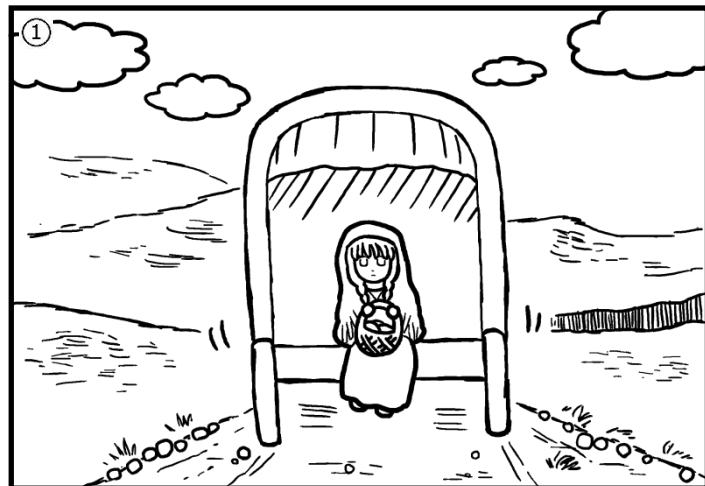
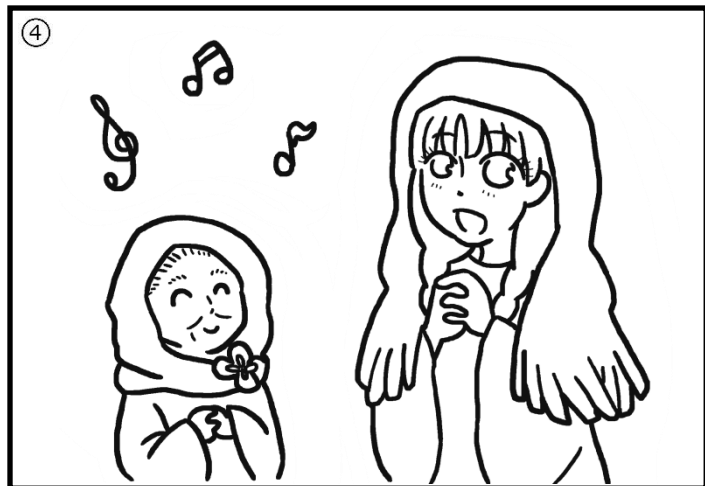
※ 各絵をA4サイズに拡大するには、まず原画を200%拡大し、更に141%拡大する。A3サイズは200%拡大し、更に200%拡大。





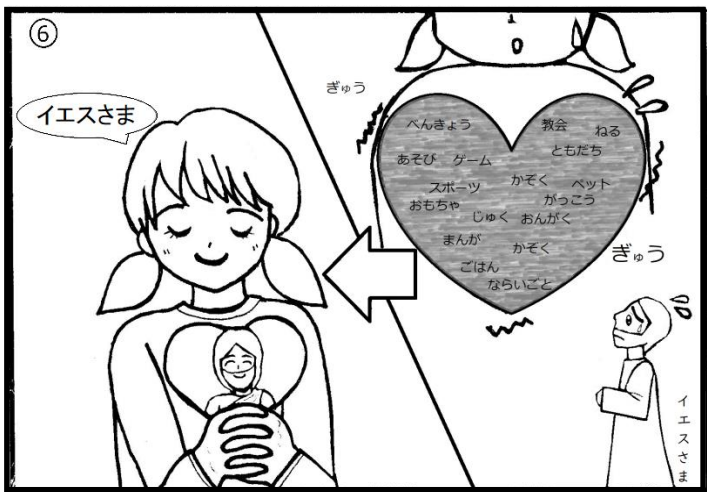
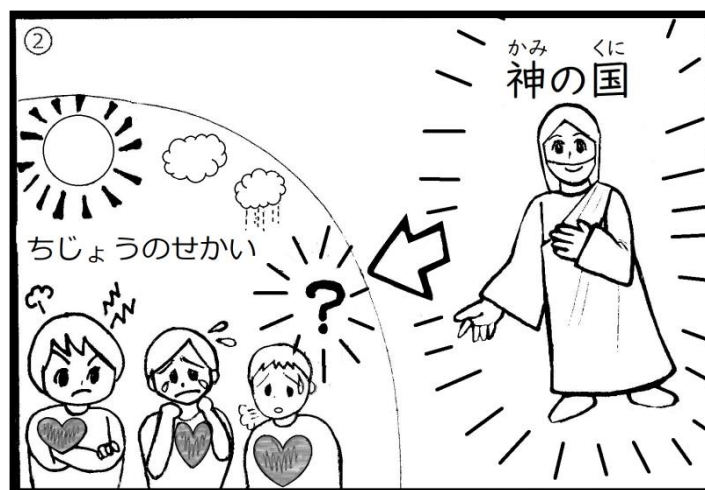
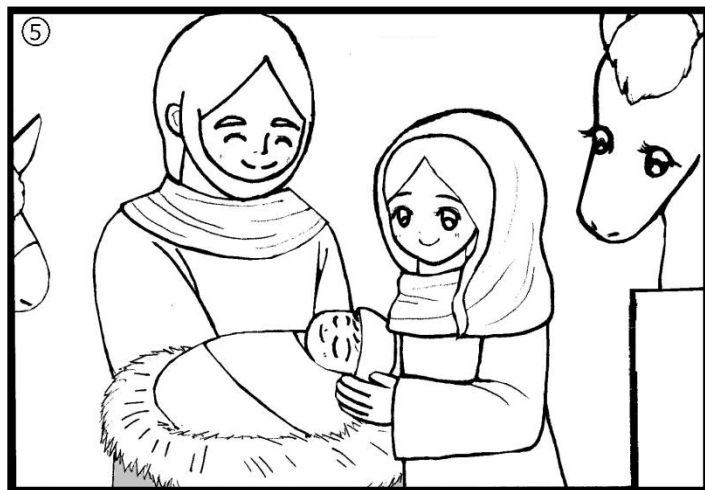
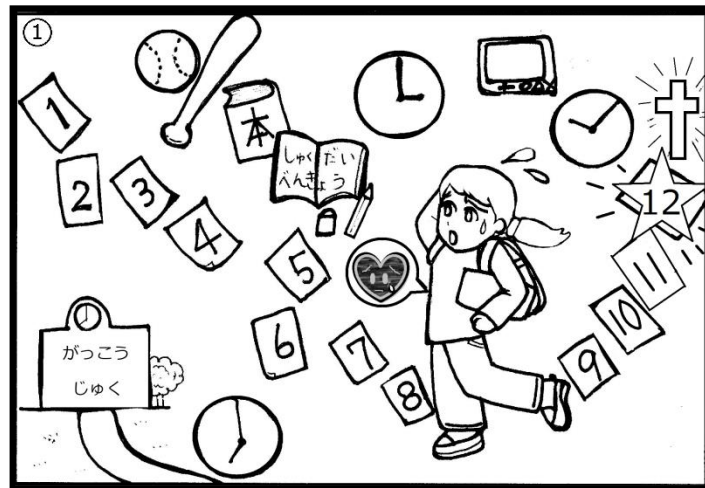
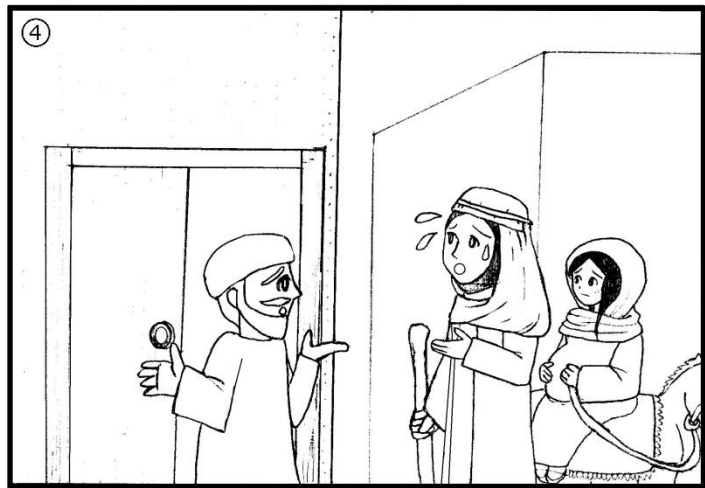
# 12月2日 「マリヤへのみ告げ」 ルカ 1・26～38

1. ナザレという町に「マリヤ」という十代半ばくらいの少女がいました。
2. マリヤのところにみ使いガブリエルがきて言いました。「恵まれた女よ、おめでとう…」マリヤはびっくりして、これはいったいどういうことだろう、と胸をドキドキさせて考えこんでいました。
3. み使いは「恐れることはありません…あなたは男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい」マリヤは思わず「どうしてそんな事があり得ましょうか。わたしはまだ結婚もしていませんのに」と言いました。み使いは「生まれてくる子は聖なる者、神の子と呼ばれます。あなたの親戚のエリサベツも、大変年をとっているのに、神の力によって子を宿しています。神にはなんでもできないことはありません」と言いました。
4. マリヤは心の中でいろいろと考えたことでしょう。ヨセフや周りの人はどう思うだろう。「裏切り者！」と、ヨセフはわたしから去っていくかもしれない。人々から石打ちの刑で殺されるかもしれない。
5. マリヤはきっぱりと答えました「わたしは主のしもべにすぎません。お言葉どおりこの身に成りますように」
6. 神様は私たちをとおして神様のすばらしさを現そうと、使命や人生の計画を用意してくださっています。それは何なのか、よくよくお祈りして、私たちも神様のご計画に従っていきましょう。



#### 12月9日 「マリヤの賛歌」 ルカ 1・39～56

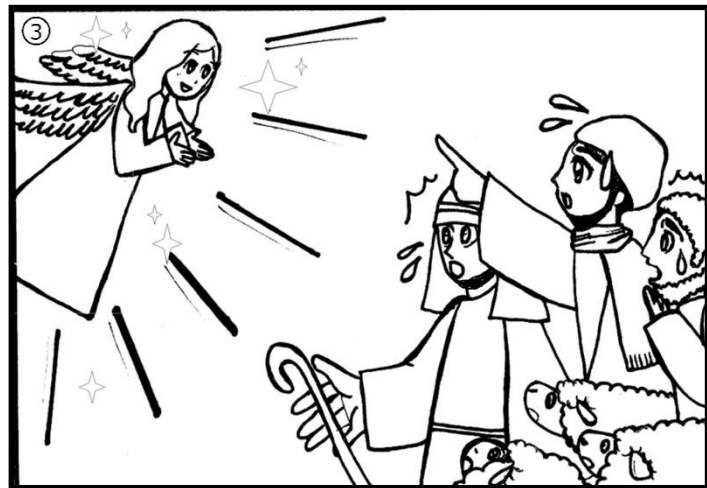
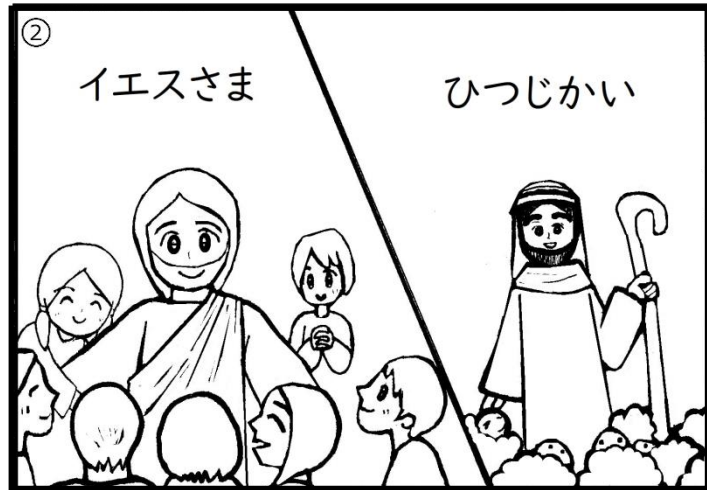
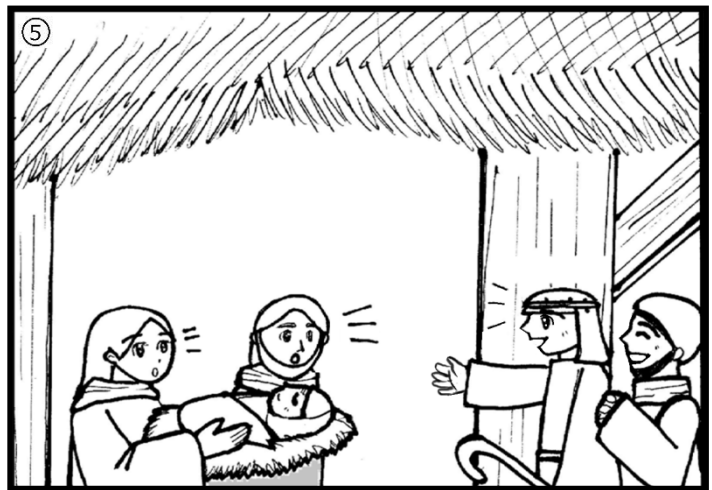
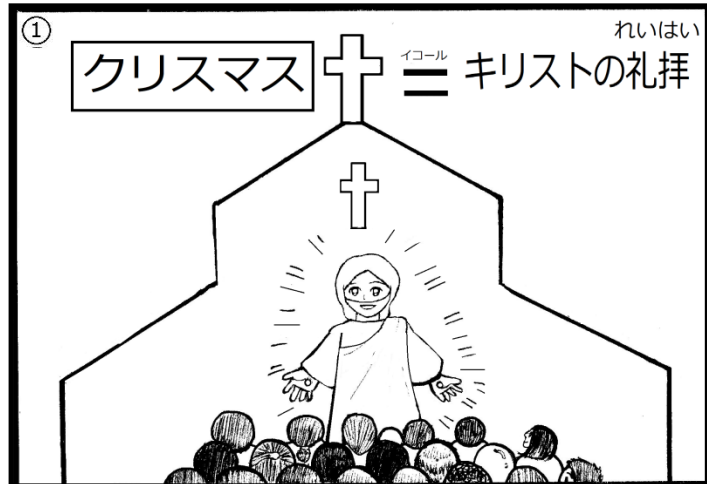
1. マリヤはエリサベツに会いに、大急ぎで山深いユダの町に出かけていきました。
2. マリヤが家に入ってあいさつをすると、エリサベツのお腹の中の赤ちゃんがビクビクッとおどりました。
3. エリサベツは大喜びでマリヤを歓迎しました「あなたはすばらしい恵みを受けましたね！」
4. マリヤはエリサベツの言葉を聞いて大変嬉しく、またほっとしたことでしょうね。そして、神様が守ってくださるからだいじょうぶと安心することができました。そしてマリヤは心を神様に向け、賛美したのです。
5. そしてエリサベツの家で三ヶ月ほど一緒に暮らしたあと、自分の家に帰っていきました。
6. 一緒にお祈りしたり、賛美をしてみませんか。賛美とは、神様をすばらしい救い主として、信じ、敬い、誉めたたえることです。このクリスマスとき、沢山の賛美をもってイエス様のお誕生をお祝いしましょう。



# 12月16日 「馬小屋で生まれたイエス」 ルカ2・1～7

1. 一年の最後にいつもクリスマスのシーズンがあるのは、とても意味深いと思います。
2. 神の国の王子様であるイエス様が、神の国から、私たちの住む地上の世界に降りて来て下さったのです！
3. おなかの大きいマリヤさんは旅の途中です。それは、その時代の支配者のローマ皇帝が皆の人数を数えるために、「自分の出身地に帰れ」と命令したからです。
4. どの宿屋も旅館も満員で、私たちのために来られたイエス様を迎え入れる場所も、人もどこにもないのです。
5. イエス様が生まれた時、その家畜小屋は、天国のような安らぎと祝福に包まれた事でしょう！
6. 心と頭の中がイエス様以外の色んな事で満員だったら、とてもイエス様をお迎えする事は出来ません。イエス様を心にお迎えするために、そしてイエス様と一緒に生きていくために、心を静かにする必要があります。そして「イエス様、私の心に宿って下さい。私の心の中にずーっと住んで下さい」と祈ります。



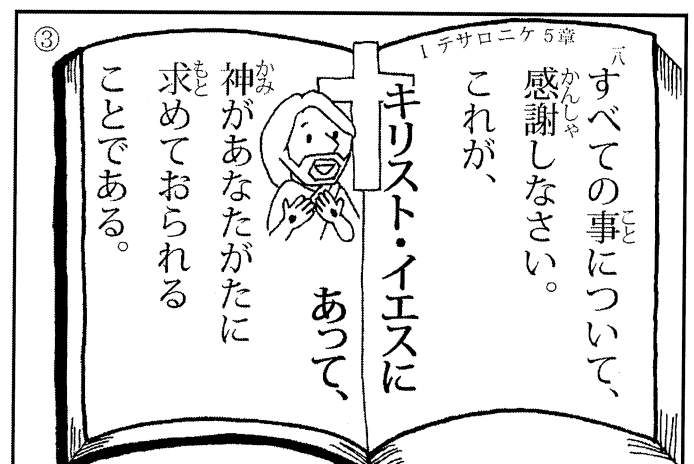
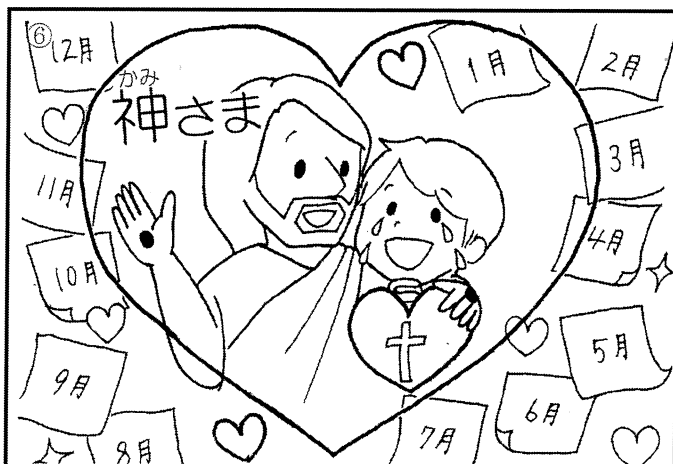
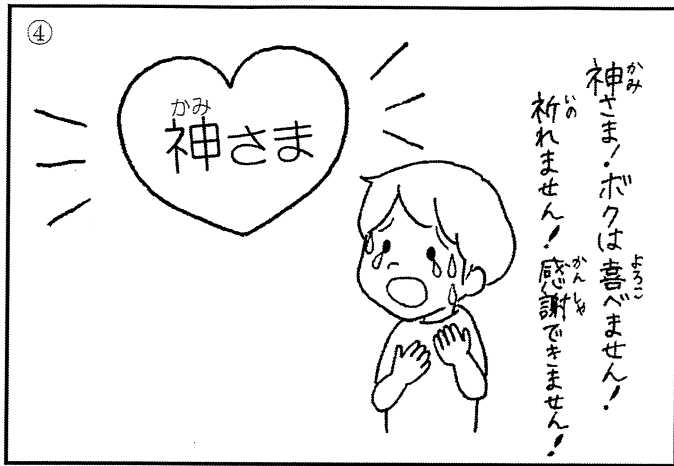


# 12月23日 「救い主誕生の知らせ」 ルカ2・8～20

1. キリスト・イエス様を礼拝するのが本当のクリスマスです！
2. 羊たちには、羊を大切に、羊を守り、羊を導いてくれる羊飼いさんが必要なのと同じように、私たち人間には、愛してくれて、守ってくれて、導いてくれるイエス様が私たちの羊飼いとして来てくださったんですね！
3. 真っ暗な夜だったのに、急に朝になったかのような、まぶしい光！み使いは言いました。
4. み使いの大軍勢が大迫力の大さんびをしました。羊飼いさん達はビックリ。
5. 「さあ、見に行こう！」と大急ぎで、赤ちゃんイエス様に会いに行きました。そして「本当だ！ボクたちの救い主だ！」と大喜びしました。
6. 神様を賛美しながら帰っていきました。

※ 各絵をA4サイズに拡大するには、まず原画を200%拡大し、更に141%拡大する。A3サイズは200%拡大し、更に200%拡大。





## 12月30日 「感謝、感謝、感謝」 Iテサロニケ 5・16～18

1. 神様のみこころ、喜ばれることは、何かな?と考えている男の子。
2. 神様のみこころである生活。「ボクにはできないなあ…」と困っている男の子。
3. Iテサロニケ5:18。「キリスト・イエスにあって」が秘訣。
4. 男の子が、正直に神様に「ボクは喜べません。祈れません。感謝できません。」と言っている。
5. できないことを全部知ってくださって、共にいてくださるイエス様。左の男の子は、それを知って喜んでいる。
6. この1年を、イエス様にあって、神様に感謝している男の子。

※ 各絵をA4サイズに拡大するには、まず原画を200%拡大し、更に141%拡大する。A3サイズは200%拡大し、更に200%拡大。